

第76回 下北沢街づくり懇談会 議事録要旨

● 日時 : 平成13年3月10日(土) 午後7時～9時30分

● 場所 : 北沢タウンホール・11階 研修室3・4

● 議題 : 1. 下北沢駅前広場について

○ まとめ

○ 区のお考え方

2. その他

● 出席者 : (敬称略)

懇談会会員

- 26名 ((司会)、

北沢総合支所街づくり部長 - 1名 (竹川)

街づくり課 - 6名 (安水、福田、八重樫、高野、佐藤、井澤)

都市整備部 建築指導課 - 1名 (窪松)

都市計画課 - 1名 (板垣)

交通企画課 - 1名 (吉田)

専門家 - 2名 (前田、若林)

◎会員異動

しもきた商店街振興組合・氏が新会員として参加。

◎世話人挨拶 :

2月27日、都議会において鉄道形式は「地下方式」との答弁がなされたので、都議会、区議会の経緯と区のお考え方を伺い、前回積み残しになった駅前計画のまとめを進めたい。

1. 下北沢駅前広場について

◎竹川街づくり部長から説明 :

2月27日、都議会で自民党の代表質問に答えるかたちで、「構造形式については地下方式が最適と判断する」旨の発表があった。翌28日の一般質問で、公明党の議員の方の質問に対し、「補助54号線について、連立と併せて関連する道路を整備することは、地域交通の円滑化のために重要なので、下北沢駅付近の54号線をはじめとする道路整備は、地元区が進めることとなっているが、都も適切な支援を行う」との答弁があった。街づくりに関しても連立事業計画と併せて支援するとし、地元説明会は本年4月を目途に都市計画素案の説明会を開催したいとの答弁がなされた。

区議会では、3月1日に下北沢駅周辺の緑化について、2日には3駅の街づくりについての答弁があった。昨日は小田急線整備方針検討会が開催された。

また、5日の区議会では街づくりの進め方についての質問に、「昨年3月、下北沢街づくり懇談会から提言のあった下北沢グランドデザイン構想図、地元区民などへのアンケート調査、および意見交換を踏まえて、駅前広場整備構想の原案をまとめた」と八頭司助役が答弁している。6日には都市整備常任委員会があり、今日ご報告する内容を説明した。

区としては今後、鉄道敷の幅はどうかなど東京都から取り寄せながら、今日ご説明する図面等含め、修正していくかたちになるだろうと考えている。

- 5日の区議会で、井の頭線の盛土部分について区がされた答弁と、改正自転車法についての質問に対し、鉄道事業者が負担うんぬんとのやり取りがあったやに記憶するが、そのへんを伺いたい。

◎竹川街づくり部長から説明：

盛土部分をアクセス道路として使えないかとの質問に、北沢総合支所長が、「地元懇談会のグランドデザイン構想図や、区・都・京王電鉄本社への要請などで、地元の要望は十分理解している。国や都の支援を仰ぎつつ、貴重な空間として積極的に鉄道事業者に働きかけていく」と答弁。駐輪場については小田急電鉄経営で、台数についても区の要望を入れてもらうとの方針で進める。

◎「今年度の懇談会の意見取りまとめ案」について専門家から説明：

……略……

- 下北沢街づくり懇談会の存在が認められ、注目度も大きいので、懇談会の意見の取りまとめ作業を専門家にしていただいたが、これについてご意見があれば伺いたい。
- 基礎的な質問だが、出された意見というのは懇談会会員だけのものか。専門家、行政の方の意見も含むのか。もし含むのであれば、どちらの意見かがわかるかたちにしていただければと思う。
- これまでの話し合い等、さまざまな要素が総合され、その人の意見としてこの場に出されたものと私は解釈している。

◎専門家から説明：

同趣旨のご意見をまとめるなどはしているが、基本的には皆様のご発言のみを整理したものだ。

- ケース1で駅前に交通広場機能を想定したのなら、ケース2では外周道路沿いの案を描いていただくのが理想かと思うが、なぜ両案とも駅前に交通広場機能となっているのか。

◎専門家から説明：

前回、駅前に交通広場を設けた案としてたたき台にいただいたが、基本として

は駅前に歩行者機能と一体的に交通広場を整備する意見が主流であろうと整理できるかと思う。まとめにも「外周道路にとの意見と並立している」というかたちで書かせていただいた。

- たたき台であれば、ケース1、2が違うものなら比べられるが、これだと誘導されているように感じる。これは専門家の方のお考えで、区から出される資料とは違うものと理解してよいか。
- 並立しているなら、もう一方の案のケースもあってしかるべき。もしも描きにくいのであれば、私ども（しもきた商店街振興組合）で練り上げてきた絵があるので、逆提案としてお見せしたいが。まとめるためには資料不足というのが実感なので。
- その提案をお預かりし、説明も今後十分お聞きしたい。今日は時間の関係で、区が作業を進め、たたき台を作成されたので、そのお話を伺いたい。
- その前に、取りまとめ（案）の項は、今年度出された意見、過去に出された意見、グランドデザイン構想図から素直に導き出されるものかどうか。恣意的な部分があるのではないか。

◎専門家から説明：

グランドデザインの段階で「駅をはさんで広場を設置、南北一体化した駅前の拠点にしていく」と言うことで構想図が作成され、すでに了解いただいている。それに基づき今回のケーススタディを描いた。ただ、意見が完全には統一されていない旨を、「外周部分に別途整備する」ということで併記させていただいた。

- グランドデザインでは「歩行者利用に主眼をおく」としており、交通広場主体にという行政とのイメージの違いを感じる。
- 当初は歩行者優先というのが大方の意見だったが、区より都市計画事業にしないと国から補助金が出ないということがあり、そのための条件として面積、機能などの説明があつて現在に至っている。まとめるにはもう少し作業が必要かと思うので、次回に回させていただきたい。次に、行政より区のお考え方についてお願いしたい。

◎吉田交通企画課長から説明：

昨日、世田谷区と渋谷区と小田急電鉄が東京都に呼ばれ、四者検討会で東京都から正式に小田急線の下北沢付近の整備方針について、今後、地下方式という方針の下に関係所管と協議していきたい、4月を目途に都市計画の素案の説明会を行うなどの話が正式にあった。

構造形式を絵でご説明すると、昭和39年に平面4線で都市計画決定され、これが現在も生きている。平成10年12月に都議会で、線増線（急行）については地下化していくとの表明があり、この時点で4線並列高架案はなくなった。その後、4線並列地下、2線高架・2線地下、2線2層地下の3案が生きてきている。今回、2月27日に地下方式が最適として地下を表明しているので、2線高架・2線地下もなくな

り、現在は4線並列地下、2線2層地下が残っており、どちらにするかの表明はまだない。その他についても、都議会と同じような内容の説明だった。

◎「東北沢・下北沢・世田谷代田駅の駅前広場整備構想(原案)」について安水街づくり課長から説明：

……略……

●①駅前広場に関するアンケートは中間報告を受けただけなので、ご報告願いたい。

②東北沢駅は地下駅になるのか。

③駅前広場構想の図で破線外にはみ出した部分は、区が買収を考慮されているのか。

◎質問①に対する回答(安水街づくり課長から説明)：

4月から行っている調査の一環であるアンケート結果などを受けて、調査結果が区に報告され、それを踏まえて、たたき台として原案を今日お出ししている。

◎質問①の補足回答及び質問②に対する回答(事務局から説明)：

駅前広場整備構想をまとめる上で、皆様のランドデザインも参考にさせていただくとともに、一方法としてアンケートを取り、既に昨年7月に集計結果をお示しした。「中間報告」とは全体の調査の中間段階という意味である。アンケート結果は整備構想原案に生きているとお考えいただきたい。東北沢駅についてだが、東北沢、下北沢、世田谷代田の3駅が地下方式と聞いている。

◎質問③に対する回答(質問③に対する回答が、他の質問に対する回答と前後するなど、議事録にとりまとめると意味が把握しづらいため、専門家から区に再確認を行なった上で、発言順にこだわらず一括した回答要旨としてまとめた)：

1) 図の破線は昭和39年決定の都市計画線で、現在、生きている線である。しかし、4線並列地表式を前提とした計画線なので、地下式の構造が確定すれば、それに合わせて変更される可能性もある。

2) 将来の鉄道計画線から駅前広場等の計画線がはみ出る部分がある場合、必要な用地については区が買収することになると思う。

●54号線は昭和6年当時の案では違うルートを通っていた。現ルートにいつの時点で、なぜ変わったのか。今後の街の整備計画の中で、変えられる可能性の有無を知りたい。これを逃すと、既定路線として決まってしまう恐れがあると思うので、確認したい。

◎安水街づくり課長から説明：

補助54号線は昭和21年、戦災復興院告示で幅員15mで告示され、昭和39年、小田急線との交差部が道路で立体化ということで、道路が高架式となっている。昭和41年には環7の交差部が都市計画変更されている。今回、鉄道が地下になるので、立体交差部の変更などが想定されるが、道路のルートの変更については、都市計画道路として決定されているので難しいだろう。都が計画決定し、区は整備を担当する

のが役割である。どう整備するかについては皆さんの要望も聞いて行きたい。

◎竹川街づくり部長から説明：

都の昔の都市計画で、500m程度の間隔で道路を設けていく細網計画があったが、戦後アメリカの指導の下、大幅に変更を加え、現在約1000m間隔の計画になっている。今後は補強・強化の微修正はあっても、大きな変更はないと考えられる。

●仮に2線2層式になった場合、原案を大幅に見直すことになるのか。

◎事務局から説明：

鉄道については、この程度は道路として使えるのではという区の思いだ。駅広の形だが、調査をかける中で、5300 m²がどれくらいの大きさになるかをつかみたかったので絵にしたもので、まだ決定したものではない。これから原案を区の中でもたたき、将来的にどうするかは地元の方々との意見交換をしていきたい。

●金子葬儀店さんから公衆便所までが広場となっているが、これは買収計画があるわけではなく、5000 m²の広さを表しただけと解釈してよいか。この紙が出回ると誤解を招く部分があるので伺いたい。

◎安水街づくり課長から説明：

そのとおりで、駅前広場構想の時点では決まってくるが、現段階ではあくまでたたき台的なものだ。

●5300 m²を形にするところで、ここを必要としているのではないという解釈は誤りか。

◎安水街づくり課長から説明：

線路敷を有効活用した中で図に落とすところになったということで、今後検討していくことになる。これで決定とするつもりはない。

●地下の並列4線になれば、この図面の灰色部分は少し上にずれると考えてよいか。

◎事務局から説明：

鉄道が実際にどうなるのかを踏まえないと、いまは申し上げられない。

●お答えに「アンケートの結果」というのが多用されたが、あのアンケート自身、誘導的な部分があるということで非常にもめた。それが修正されないまま、民意を反映するものとされているのではないか。

◎安水街づくり課長から説明：

都市施設としての駅前広場なので、本来ならもっと広くなるところを、皆様方のご意見を入れてこういう配置になったとご理解いただきたい。

●今日いただいた図面が独り歩きして誤解を生じないように、皆さんも慎重に扱っていただきたい。わからないところはわからないと答えるしかないのでは。

●確認だが、2線2層の地下になった場合、もっと細長くもなり得ると理解してよいか。

◎事務局から説明：

この図は地面に線路がなくなると仮定して、この程度の道路は必要ということで

描いたもので、線が細くなったらどうかといったことではない。

●線路敷をはみ出して都市計画決定をする可能性があると認識して描かれたということか。

◎事務局から説明：

いまある鉄道敷の上を基本にして、これぐらいはつくっていききたいという絵になっている。

●線路敷以外にも駅前広場を整備する可能性もあるということか。

◎事務局から説明：

線の内側は昭和 39 年の都市計画決定以来、制限されている。そこで、なるべく多くの方にこれ以上制限がかからないようにということで、いまある線を前提として行政の今後の整備への夢部分を語ったものだ。

●この絵はこの場で回収したらどうか。

●これは原案だと説明があれば、われわれはこれがベースだと取るので深刻になる。こういうビジュアルなものは鮮明にイメージに残るので、よほど注意して提出しないとダメだ。これは全く自由に勝手に描いた絵だという発言がきちっとあれば、一つのプランと受け取れるが。

◎竹川街づくり部長から説明：

本日の資料は構造が不明の段階で描いたもので、4月から行なった調査報告から抜き出したものであり、つい先日、一般の方も区政情報コーナーで見ることができるようになってある。今後、修正されるものとお考えいただきたいが、極端に変わるということはないと思う。

●今日初めて目にした資料なので、ご質問、ご意見もあろうが、第 77 回懇談会を至急設定し、しもきた商店街から提案のある資料も検討する場をつくりたい。

◎閉会挨拶（ 世話人）

やっとスタートラインに立てたのではないかとつくづく感じた。区から出された駅前広場整備構想原案によると、歩行者主体の街づくりという文言が多々見受けられるが、最後に大変熱いご意見になったように、ケース 1 の図面はちょっと違うのではと感じている。紆余曲折あるかと思うが、今日のように万障繰り合わせて大勢ご出席いただき、ご意見をいただければありがたい。都市計画のための原案づくりを基本に進んでいきたい。よろしくお願ひします。